

《担当者名》教授 / 飯塚 健治
 教授 / 泉 剛 講師 / 鹿内 浩樹

【概要】

疾患の発見、病態把握の基礎となる自覚症状や他覚症状の観察とその情報収集につとめる習慣はすべての医療分野において極めて重要である。本講では疾患に伴って現れる主要な症候について学修し、症状および徴候が出現する機序について学び、その背景となる疾患を理解する基礎知識を身につける。

【学修目標】

多種多様な自覚、他覚症状と疾患の関係を理解し、症候の内容から可能性のある複数の疾患を想起することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	総論 事前に資料を配付する。	診断学の必要性や重要性について概説できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E1-(2)- -1 E1-(2)- -8	飯塚 健治
2	主要症候1 事前に資料を配付する。	高血圧、低血圧、ショックなどについて説明できる。 意識障害、失神などについて説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E1-(2)- -1 E1-(2)- -8	飯塚 健治
3	主要症候2 事前に資料を配付する。	浮腫、心悸亢進、動悸、胸痛などについて説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E1-(2)- -1 E1-(2)- -8	飯塚 健治
4	主要症候3 事前に資料を配付する。	呼吸困難、咳、痰、血痰、喀血、チアノーゼなどについて説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E1-(2)- -1 E1-(2)- -8	鹿内 浩樹
5	主要症候4 事前に資料を配付する。	発熱、脱水について説明できる。 血尿、蛋白尿、排尿などの尿路系および尿所見の異常について説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E1-(2)- -1 E1-(2)- -8	飯塚 健治
6	主要症候5 資料を配付する。	肥満、やせ、全身倦怠感、発疹、貧血・リンパ節腫脹、出血傾向について説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E1-(2)- -1 E1-(2)- -8	泉 剛
7	主要症候6 資料を配付する。	腹痛、悪心・嘔吐、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血について説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E1-(2)- -1 E2-(2)- -8	泉 剛
8	主要症候7 資料を配付する。	黄疸・肝腫、腹部膨満（腹水）について説明できる。 月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛について説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E1-(2)- -1 E1-(2)- -8	泉 剛

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
9	主要症候8 資料を配付する。	めまい、頭痛、けいれん、運動麻痺、不随意運動、筋力低下、嚥下困難・障害などについて説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E1-(2)- -1 E1-(2)- -8	泉 剛
10	主要症候9 資料を配付する。	視力障害、聴力障害、記憶障害、知覚障害（しびれを含む）、神経痛などについて説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E1-(2)- -1 E1-(2)- -8	泉 剛

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

期末定期試験（100％）を以って、合否の判定を行う。

（正答率の低い問題については、解答と解説を「遠隔授業ポータルサイト（Google drive）で公表する。）

【教科書】

「症候学」 早川伸樹、脇田康志 京都廣川書店

【参考書】

「薬学生・薬剤師のための知っておきたい病気100」 日本薬学会編 東京化学同人
「クリニカル・ファーマシーのための内科学」 溝口秀昭、狩野庄悟 医薬ジャーナル社
「クリニカル・ファーマシーのための疾病解析 本編」 福地 坦 監訳 医薬ジャーナル社
「クリニカル・ファーマシーのための疾病解析 ワークブック」 福地 坦 監訳 医薬ジャーナル社
「クリニカル・ファーマシーのための疾病解析 教師用指導書」 福地 坦 監訳 医薬ジャーナル社
「医学概論・臨床医学総論」 臨床検査講座13 清水文彦ほか 医歯薬出版株式会社
「よくわかる内科」 福山裕三、高杉佑一 金原出版
「一目でわかる病態生理」 松野一彦 メディカル・サイエンス・インターナショナル

【学修の準備】

予習として、シラバスに記載されている次回の講義範囲について教科書やこれまでに使用した資料を読み、疑問点などをまとめておくこと（40分）。

授業の内容の小テストを実施することがあるので、復習をしておくこと（50分）。

授業終了時に練習問題等を課した場合は、次回の授業までに解答しておくこと（50分）。

復習として講義終了後早期に資料などをもとに内容を再確認するとともに（50分）、日常においても専門用語の内容や意味についてあらかじめ理解しておくこと（20分）。

【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】

E1 薬の作用と体の変化

(2) 身体の病的変化を知る

【 症候】 -1

【 病態・臨床検査】 -8

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

- 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。
- 多職種が連携する医療チームに積極的参画し、地域および国際視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

【実務経験】

飯塚 健治(医師)、泉 剛(医師)、鹿内 浩樹(薬剤師)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での医師、薬剤師としての経験をもとに、医療場面で遭遇する可能性の高い臨床診断に関する知識を講義する。